

「学校五日制」で

遠足がなくなる?

「①春の遠足を今年度から廃止する。

②来年度から六年生の修学旅行を廃止の方向で検討中……」

もし、こんな通知が子どももの通っている小学校から届いたら、おそらくどの親だって「えっ、どうして?」と問わずにはいないでしょう。親たちにとっても、小学校時代の春、秋の遠足や運動会などはいつまでも忘れえぬ懐かしい思い出です。それを廃止するなんて、今の学校はいったい何を考えているのかしらと、普通の親であれば思うでしょう。

ところが、現実にはそういう学校が県内に出始めたのです。六月一五日付の「朝日新聞」新潟版は、新潟市内のある小学校が校長名で先のような通知を出したために保護者が反発し、学校は改めて「授業時間確保と行事目的の明

確化のため、今年度は遠足を社会見学に統合した。修学旅行も廃止した上で新しい形に見直すということだが、説明が足りずおわびしたい」と釈明の通知を出した……と報じました。

この釈明で親たちがすんなり納得したかどうかは、報じられていませんから分かりませんが、学校五日制が施行されてから、県内ほとんどの学校は学校行事の削除や統合を余儀なくされているのです。前記「朝日新聞」によれば、「昨年度、新潟市内の小学校全校(六〇校)で行事の削除が行われ、削除された行事では、マラソン大会(二二校)、プール開き(一一五校)などが多かった」(新潟市小学校長会、九二・一二調べ)といえます。

昨年度から施行された新学習指導要領による教育は、過密ダイヤの新幹線教育といわれるほど、子どもたちの学習負担を増大させています。国語大嫌い、算数大嫌いの子が急増し、学校が楽しいなどという子はいなくなりまし

た。

学校五日制への期待の一つは「子どもにゆとりのある生活を取り戻させた」ということだったはずですが、しかし文部省は、当面学習指導要領の中身を見直す考えはないとした上で、授業時間確保には学校行事などの精選で対応すること、と各都道府県の教育委員会に通知しました(九二・三)。新潟県の教育委員会はもっと具体的に、「遠足と登山など、性格の似た行事を統合する」「運動会などの簡素化を図る」などで授業時間を確保するようにと指導しています。

学校五日制を内実のある制度として定着させるためには、どうしても学習指導要領を見直し、指導内容を精選しなければなりません。このままでは、益々学校嫌いの子どもたちが増えていくでしょう。遠足も運動会もない灰色の学校生活——そういうえば、一九四〇年代、戦争中の日本の学校がそうでした。

(か)